平成26年度 矢掛町立山田小学校学校評価書

校長　　弓取　錦也　印

【　本校のミッション　】	学校運営協議会委員		学級数	8学級	児童数	78人
楽しい学校　信頼される学校 ①将来への基礎となる学力をつける学校 ②たくましい体と豊かな心を培う学校 ③一人一人が大切にされる学校 ④家庭や地域とつながる学校	加藤　　進　（学識経験者） 田口博久　（地域コーディネーター） 国司芳子　（ボランティア）	笠原　義晃　（小学校PTA） 武田 真佐子　（民生児童委員） 顧問：尾島　卓（学識経験者）	職員数	19人	家庭数	55戸

A成果をあげている　Bほぼ成果をあげている　Cあまり成果をあげていない　D成果をあげていない

		中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自　己　評　価	評価
1	学力をしっかりつける学校	学ぶ意欲を高め理解を深める授業づくりをする。	「教えて考えさせる授業」「特別支援教育の観点を取り入れた授業」の充実を図る。	校内研修や授業研究によって指導法を改善する。	アンケートにより，授業が楽しい児童が80%を超えることができたか。	アンケートの結果によると，授業が楽しいと感じている児童が 89%である。子どもが楽しいと感じていると答えている保護者が，94%いる。教師も「教えて考えさせる」授業研究やアセスメントシートの研修・分析に取り組み，みんなが分かる授業を目指している。	A
2		国語と算数の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	当該学年の国語と算数の基礎的・基本的な内容の到達度が8割以上になるようにする。	T・Tでの朝の学習・わかるタイムを行い，繰り返し指導をする。 読解力を付ける内容を選定して指導する。	当該学年の国語と算数の単元ごとの振り返りテストの到達度が8割以上の児童が80%を超えることができたか。	朝の学習，わかるタイムでは，ボランティアの協力を得て繰り返し学習することができた。基礎的・基本的な内容の到達度が8割以上の児童は，国語84. 8%，算数80.0%であった。引き続き，時間の確保・内容の選定・指導法の工夫をして定着率が上がるように努めていきたい。	B
3		コミュニケーション能力の育成を図る。	全教育活動の中でコミュニケーション能力を育成する。	自分の考えを書いたり説明したりする場を多く設定する。 また，全町で4年生児童を対象に合同授業を実施する。 全体の場で発表する機会を設ける。	アンケートにより，自分の考えを分かりやすく書いたり発表したりしようと努力している児童が80%を超えることができたか。	授業で，自分の考えを書いたり説明したりする機会を多く設定した。自分の考えが発表しやすいように，基本的な話型を指導した。また，クラスでのフリートークや全体の場で発表する機会を意図的に設け，自分の考えや思いを表現できるようにしてきた。結果，考えを分かりやすく発表しようとする児童が76%いた。4年生対象の合同授業では，多人数の中で発表し，自信を持つ児童がいた。	B
4		家庭学習の充実を図る。	学年にあった家庭学習を提示し，学習への意欲をもって取り組ませることで，学習内容の定着を図る。	家庭学習時間（10分×学年）を基にして，家庭学習の内容を考える。 読書量を増やす。	アンケートにより，家庭学習時間（10分×学年）以上している児童が，　70%を超えることができたか。 全校で年間2500冊（①500②1000③1000）を超える。	「家庭学習の手引き」を保護者に説明し配付することで徹底を図っている。また，教師間で共通理解を図り，機会をとらえて児童に指導している。89%の児童が，10分×学年以上の学習時間を確保している。児童の実態により時間に差があるので，自主的な学習の定着を図っていきたい。9月末で，1535冊の貸し出しがあった。今後，どんどん読書やぶっくるのクラスへの貸し出しなど，読書環境を整え，読書量を確保していきたい。	B
5	一人一人が大切にされる学校	特別支援教育の充実を図る。	個々の児童の実態を共通理解し児童の困り感に応じた指導を目指す。特別支援学級の増設により，更にきめ細やかな支援を目指す。	生徒指導終礼及びケース会議などで連絡を密にしたり，専門家の意見を参考にし個別の教育支援計画を作成したりすることによって，よりきめ細かい個別指導をする。	週一度生徒指導終礼及び必要に応じケース会議を行い，児童の実態や困り感を共通理解し，児童の心の安定を図ることができたか。	生徒指導終礼で困り感のある児童への共通理解が図れており，支援が必要な児童に関しては，きめ細かく全職員で対応している。そして，作成した個別の支援計画をもとに，児童の実態に応じた個別指導を行うようにした。その結果，情緒が安定したり，学力補充の機会が増えたりした。引き続き効果的な指導のできる教員または特別支援教育支援員を確保してほしい。	B
6		いじめや新たな不登校の生まれない環境整備をし積極的な対応に取り組む。	何でも話すことのできる雰囲気作りに努め一人ひとりが大切にされる学級づくりや学校づくりを行う。	学級では「よいところ探し・クラス遊び」，全校では「縦割り班活動・なかよし集会」等を企画・運営する。遅刻が多い児童等不登校予備軍について，機動的組織的な対応をとり，専門機関とも連携しながら不登校化を防ぐ。	なかよくなるカードのアンケートで，「学校が楽しい」と感じている児童が，80%を超えることができたか。 いじめゼロが達成できたか。不登校ゼロが達成できたか。	業間，昼休みに仲良くクラス遊びをしたり，異学年で遊んだりする姿が多く見られている。縦割り班活動では，高学年が低学年の世話を優しく行えている。なかよくなるカードでは「学校が楽しい」「どちらかといえば楽しい」を合わせて約97%であった。 不登校・長欠児童には，学校のケース検討会議で対策を検討し，全職員が連携して指導にあたっている。本年度からは登校支援員が配置され，個に応じた声掛けが可能になり効果があがっている。不登校の児童も登校できる時間が少しずつでてきた。	B
7		子どもの心に寄り添う教育相談や支援を行う。	児童の生活を見守り，児童の心のサインを見逃さない努力をする。問題があれば学校全体で解決にあたる。	なかよくなるカードのアンケートを基に教育相談日を学期1回設ける。	教育相談等で児童の話をよく聞き信頼関係づくりができたか。	児童のアンケートによると90%以上が「先生は自分の話を聞いてくれる」「先生は一人一人を大切にして，自分が仲間はずれやいじめにあった時，助けてくれると思う。」と感じている。また，学期に1回の教育相談日を設けて児童一人一人と話し，相談に応じている。問題があれば生徒指導終礼等で話し合い，学校全体で対応している。	A
8	たくましい体と豊かな心を養う学校	外遊びを奨励し，進んで体を鍛えようとする態度を育てる。	友達と楽しく体を動かす子どもを育てるとともに，自ら進んで体力を向上させようとする態度を育てる。	元気タイム（月2回）を設け，体を鍛えるとともに運動に親しむ子どもを育てる。名人への道の得点の高い児童について表彰する。平成25年度の新体力テストの結果から，全国平均に比べて体の柔らかさが特に劣っていた。自宅でもできるストレッチを紹介して，体の柔らかさの強化を図る。低・中・高学年それぞれ合同で体育授業を行う。	アンケートにより，「学校で進んでスポーツを楽しんだり，外でしっかり遊んでいる」に当てはまる児童が学校全体の80%以上になったか。	アンケートでは，「学校で進んで外でスポーツを楽しんだり，外でしっかり遊んでいる」と答えた児童が92%いた。休み時間になると，運動場に出て，サッカーやおにごっこなどを好んで行う児童が多く，仲間と一緒に運動を味わおうとしている児童の姿が多く見られた。 毎月2回行っている「元気タイム」が定着しており，「名人への道」（個人カード）を活用することで，児童が個々の能力に応じた目当てをもちながら，様々な運動を経験することができている。 本校の課題である，「児童の体の柔軟性」を高める運動は「元気タイム」で行っているが，月2回では継続した十分な取り組みとは言えない。体育科の授業の中でも行っていくことで，効果を上げていきたい。	B
9		基本的な生活習慣の定着を図る。	「矢掛町あはは」（あいさつ・はきものそろえ・「はい」の返事）の運動を充実させる。 早寝，早起き，朝ご飯の生活習慣を定着させる。	「矢掛町あはは」を毎日唱え意識を高めたり，学級懇談等で実施を推奨したりする。 元気アップカードを作成し，実施することで，より望ましい生活習慣が身に付くように，児童保護者に対して，指導啓発する。 元気アップカードの中の項目に，家庭で決められた「テレビやゲームの合計時間」の項目を追加し，望ましいテレビやゲームの視聴についての意識を高める。	「早寝　早起き　朝ご飯」の習慣が定着してきているか。元気アップカード得点8割以上達成できる子が学校全体の70%超えることができたか。 「矢掛町あはは」運動の意識が高まり，実践できているか。保護者・児童のアンケートで，できているが80%を超えることができたか。 元気アップカードの中の家庭で決められた「テレビやゲームの合計時間」の項目の得点8割以上達成できる子が学校全体の70%を超えることができたか。	元気アップカードの取り組みの結果，「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣については，得点8割以上（11点以上）達成した児童が80%を超えていた。しかし，「早寝・早起き」の項目では満点の児童が少なく，保護者からは「早寝・早起きが難しい」「朝なかなか起きられない」という感想が寄せられている。規則正しい生活習慣を身に付けるために，有効な時間の使い方や，計画的に行動することの大切さなどを啓発していく必要があると考える。 「テレビやゲームの利用時間」についても，目標数値は達成できている。メディアに接する時間についての約束を決めている家庭が多く，満点に近づいている児童が少しずつではあるが増えている。引き続き，児童や家庭への啓発を行っていきたい。 「矢掛町あはは」に関する保護者と児童のアンケートでは，「あいさつ」・「はいの返事」では児童・保護者とも，目標値を上回っていた。「はきもの」では保護者で78%とやや低めであったが，総合的に評価すると，学校でも家庭でもよい生活習慣を身に付けるための取り組みができていると考えられる。	B
10	家庭・地域とつながる学校	保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。	学校情報の積極的な情報公開に努める。	学校経営がよくわかる便りを月1回以上出し，年間7回以上は全戸配布する。ホームページ上で学校の情報を発信する。また，ブログを利用し，情報を頻繁に発信する。	学校だよりが年間12回以上発刊できたか。年間4回以上全戸配布できたか。 毎月2回以上ブログの更新ができたか。	学校だよりは，毎月発行し本年度は2回全戸配付した。(PTA新聞は1回）ブログについては，行事のたび毎に更新がほぼできている。学校評価アンケート（保護者）結果から，学校からの情報がよく伝わっているという数値が94%（昨年度は92%）あったのは，年々良い傾向にある。	A
11		外部ボランティアとの連携を深める。	保護者・地域の方等に教育活動への参加を呼びかける。	矢掛町学校支援推進本部との連携を深め，学校行事・授業への積極的な参加ができるようにする。 「学習アシスト型授業」を実施し，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	「学習アシスト型授業」「水やりボランティア」「環境整備支援ボランティア」「安全パトロール」等，外部ボランティアの活動を増やし，「支援者リスト」の支援者数が増やせたか。 「学習アシスト型授業」を2学年以上で実施することができたか。また，教師や児童の感想等でその効果が認められたか。	学習アシスト型授業は，昨年度に引き続き5年生総合的な学習の時間（アスパラの収穫体験や調理）や5・6年生家庭科のミシン学習で実践することができた。水やりボランティアも昨年度と同じ14名の方にご協力をいただいて，校庭の栽培環境は美しく整えられている。また，児童の下校時の安全確保のため，安全パトロールに13名の方が年間を通して参加していただいた。また，環境支援ボランティアとして，茶畑その他の草刈をしていただき，学習環境が整ってきた。学校評価アンケート（児童）結果から，ほとんどの児童（95%，昨年度は89%）が，ボランティアの方々の支援をとても歓迎していることがわかった。	A

分　析　・　改　善　方　策

学力向上については，算数たしかめテストや岡山県到達度確認テストなどを各学年で実施し，その結果の分析を踏まえながら基礎基本の定着を図り，児童のつまずきを解消していく実践を今後も継続していく。また，互いに学び合う学級づくりを目指していく中で，どの児童にも分かる授業を行うことで，学力向上を図りたい。コミュニケーション能力の育成については，授業で児童が書く活動や，説明する活動を多く取り入れるようにした。また，フリートークや全校スピーチ等の機会を意図的に設け，自分の考えを表現できるようにして効果をあげている。さらに全校で基本的な話型を統一して，一層の定着を目指して指導している。本年度は特別支援教育充実のための加配教員や特別支援教育支援員の増員により，個々の児童について昨年以上によりきめ細かい支援ができるようになった。本年度もアセスメントシートを全学年で実施しその結果を分析することで，学習指導や学級経営等に有効に生かすことができた。一方，通常学級の児童で支援を必要とする児童は年々増加傾向にあり，その指導についてはまだまだ十分な対応がとれているとは言えない。そのためにも，今後も教職員の指導体制の充実が不可欠であると考えている。不登校傾向にある児童については，登校支援員や専門機関と連携しながら必要に応じてケース会議を行い，効果的な方策について継続して検討していきたい。早寝・早起きの習慣作りやあいさつについては，継続してPTAの主体的な取組と連携しながら児童の生活習慣の改善を推進していきたい。

学　校　関　係　者　評　価

・学力向上については，「教えて考えさせる授業」の研究により指導法を改善し，T.Tでの朝学習・わかるタイムで基礎的・基本的な内容を繰り返し指導して学力の定着を図っている。全国学力・学習状況調査の平均正答率は，国語・算数ともに全国平均を上回っているが，文章を書いたり説明をしたりすることが苦手な児童が多いようである。引き続き，授業で自分の考えを書き，説明する機会を多くもつ指導をしていく必要がある。コミュニケーション能力は様々な取り組みで少しずつ力を付けている。読書量を増やす取組の一つとして，学年に応じた本を紹介し家庭との連携により読書推進を図るように話し合っている。ICT教育推進のため，電子黒板キットやタブレット端末，校務支援システムの導入など教育委員会で検討をお願いしたい。
・特別支援学級が2学級になり，11名の児童がきめ細やかな個別指導により落ち着いた学習ができている。通常学級にも支援を必要とする児童がおり，来年度も8名の児童が特別支援学級に入級を希望している。引き続き，特別支援教育加配教員と町支援員3名の配置をお願いしたい。
・安心して学習できる環境づくりとして，来年度，各教室にエアコンが設置されることになりありがたい。校舎本館と東校舎の継ぎ目等の雨漏りが激しく廊下が濡れ，児童が移動する時に滑り危険なので，早急に修理をお願いしたい。